

<平成25年秋季大会ミニシンポジウム企画案>

「選択漁獲は古いのか?! — Science 論文の意義を探る」

日時・場所 平成25年9月22日(日) 9:30~14:30

企画責任者 藤森康澄(北大院水), 牧野光琢(水研セ中央水研), 松下吉樹(長大院水環),
三橋廷央(鹿大水), 東海 正(海洋大)

開会の挨拶 東海 正(海洋大)

- | | |
|-----------------------|-----------------------------|
| 1. 国際的な議論の経緯 | 座長 松下吉樹(長大院水環)
有元貴文(海洋大) |
| 2. Science 論文の意味するところ | 牧野光琢(水研セ中央水研) |
| 3. 選択漁獲が遺伝資源へ与える影響 | 北門利英(海洋大) |
| 休憩 | |

- | | |
|----------------------|---------------------------|
| 4. 選択漁獲が生態系へ与える影響 | 座長 三橋廷央(鹿大水)
松田裕之(横国大) |
| 5. 沿岸漁業における生態系の多様な利用 | 丸山拓也(三重水研) |

総合討論

座長 牧野光琢(水研セ中央水研)

閉会の挨拶 藤森康澄(北大院水)

企画の趣旨

2012年のScience誌にReconsidering the Consequences of Selective Fisheries(335, 1045-1047)と題する論文が発表された。これまで、種やサイズに対する選択漁獲は、漁業者の経済的利益を大きく損ねること無く資源の保全を実現する方策として世界的に推し進められてきた。しかし、近年、資源の選択的利用

により生じる生物学的・生態学的影響が指摘されており、生態系ベースの漁業管理という観点から、選択漁獲のあり方について再考が示唆されている。そこで、現在の国際的議論の経緯と指摘されている選択漁業の問題点を理解するために、本シンポジウムを企画した。